

語学研修 体験報告書

参加プログラム名	ディーキン大学プログラム	研修先の国名	オーストラリア	所属学科	国際関係学科
研修時の学年	2年	研修期間(○年○月～○週間)	2023年2月～3月	記入年月日	2023年9月19日

①研修内容(授業や研修先)について特に印象に残った事

ディーキン大学はとても広く、普段日本では体験できないような学生生活を送ることが出来ました。朝から大学内にあるカフェテリアやジムが営業しており、10時から始まる授業の前に勉強や運動をすることができ、非日常的な経験でした。他大学の日本人学生とも積極的に英語でコミュニケーションを取り、分からない単語や内容についてはパソコンで調べるのではなく、先生に直接聞くように努めていました。そうすることで、英語に必要な4技能を全て向上することができたため、結果としてとても意義のある語学研修になったと思います。

②放課後等の課外活動の感想

私は「今しかできない経験を、今全力で楽しむ」というささやかな目標を立てて1ヶ月を過ごしていました。例えば、上記で述べた通り朝早くに学校へ行き、ジムで運動をしてから授業に参加し、放課後には市内までトラムで移動してナイトマーケットという屋台のイベントや映画鑑賞、ライブへの参加など、その時期、その場所でしか味わえない体験を積極的に取り入れました。経験をお金で買う、ということは、どんなお土産や高級品を買うよりも贅沢なことだと思います。観光ツアーやイベントの参加はモノとして残るものはありませんが、その経験が私にとって一生の財産となり得るからです。

③滞在先の感想を含め、異文化での生活についての感想

私は高校時代から何度か海外で暮らす経験があったため、今回の留学で違和感を持ったり困惑したりすることはありませんでした。ホストファミリーはとても温かく受け入れてくれ、夕食中での会話などを通じてお互いの暮らしや趣味についてよく知ることが出来ました。朝と昼のご飯は各自で作るルールがあったため、学校へ行く前に自分で調理をしていました。2月～3月のメルボルンの日照時間は長く、21時前まで外が明るいのがとても魅力的でした。ホームステイ先の家の周りには高い建物がなかったため夕焼けが綺麗で、自然の美しさも東京ではなかなか感じることはできない経験です。

④今後参加される方へのメッセージやアドバイス

ホームステイに関しては、決してもてなしてもらうことが当たり前と思わないことを念頭に置いて過ごして欲しいと思います。「やってもらって当たり前」ではなく感謝の気持ちを伝えたり、手伝いをするのではないかなど声をかけたりするなど、自発的な行動を心がけてみてください。

その土地に順応することは、人によっては難しく感じるかもしれません。しかし、たった1ヶ月しかない時間をどのように過ごし、価値のあるものにするかは本人次第です。いつもとは少し違う行動をとるその勇気は、きっと大きな成果をもたらします。何より、笑顔で、健康に楽しむことが一番です！